

地域フォーミュラリの実施に向けた 地域関係者への周知活動

○ 木下雅文¹、尾関正明¹、川上善久¹、熊崎進²、長友絵梨佳³ 1.一般社団法人 飯田下伊那薬剤師会 2.同 会営薬局 3.同 会営やまなみ薬局

■ 背景

飯田下伊那地区（飯田市と下伊那郡の計1市3町10村：以下、当地区）では高齢化が顕著であることから、地域医療連携の一環として、飯田市長から飯田医師会に地域フォーミュラリの検討依頼があり、飯田医師会から飯田下伊那薬剤師会（以下、当会）に地域フォーミュラリ導入の可能性について検討依頼があった。

当地区では以前から地域医療連携の一環で飯田市、南信州広域連合（当地区的広域連合）を主体としたism-Link/ID-Link連携を実施しており、既に連携を図っていた調剤情報を活用した地域フォーミュラリに関する検討を実施した。

■ 目的

当会では、当地区における地域フォーミュラリを実施するために、飯田医師会、飯田下伊那歯科医師会、飯田市役所、当会会員薬局など（以下、地域関係者）に当地区的現状を把握し、当地区に最適な地域フォーミュラリの検討と地域フォーミュラリへの理解を深めるための周知活動を行った。

■ 方法

① 地域関係者への情報提供

当会が地域フォーミュラリに関する情報収集や検討を行い、地域関係者へ適宜説明を実施した。

② 調剤データの活用

地域医療連携システムにより集められた調剤データを活用して地域フォーミュラリを検討した。

- ・調剤データを収集する仕組み：ism-Link/ID-Link連携、フルモクラウド
- ・調剤データを分析する仕組み：Tableau
- ・データ分析手法：モデルフォーミュラリを参考に対象薬品群の傾向分析や成分ごとの詳細分析など

③ 会員薬局向けのアンケート調査

当会は会員薬局の現状課題把握の一環として、地域フォーミュラリ認知度に関するアンケート調査を実施した。

- ・調査対象：当会会員薬局（全67薬局）
- ・調査機関：2022年11月21日～12月2日
- ・実施要領：当会会員薬局にアンケート用紙を直接配布し回答を回収

■ 結果

① 地域関係者への情報提供

※青文字：当会内の取り組み 黒文字：当会外への取り組み

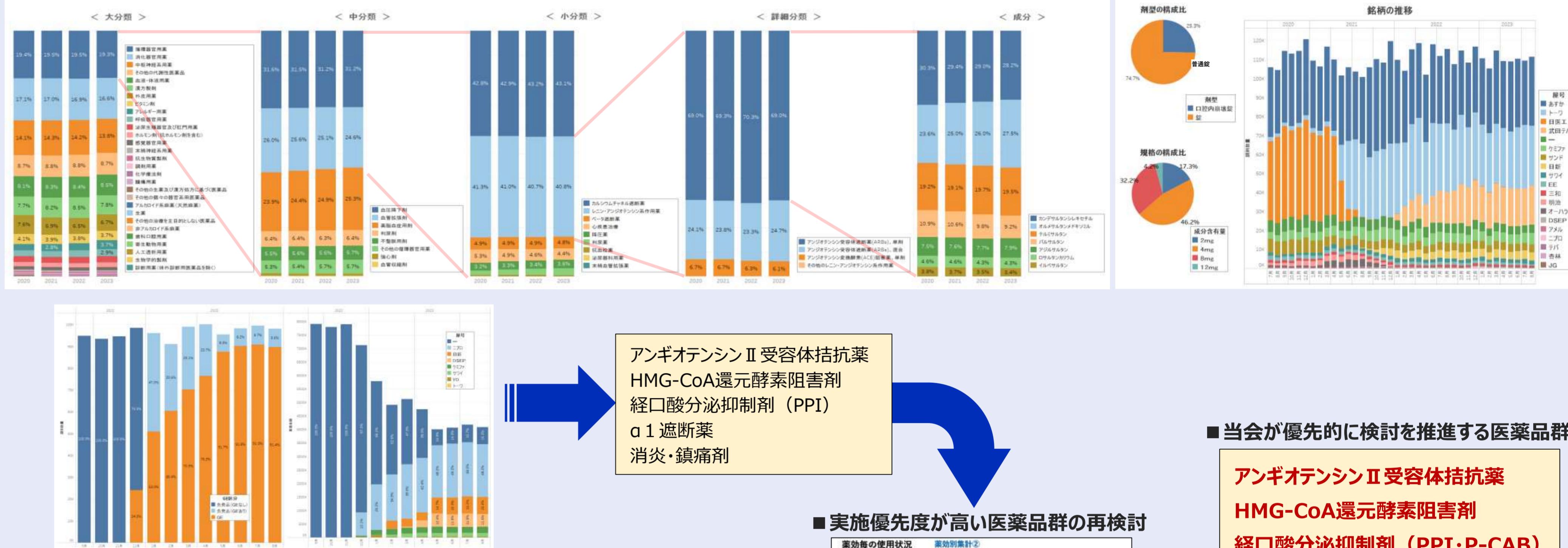
| 年 | 月 | 内容 |
|-------|----------|---|
| 2020年 | 2月 | 飯田市長から飯田医師会に検討依頼 飯田医師会から当会に検討依頼 |
| | 4月 | 当会内で地域フォーミュラリの検討 飯田医師会への概要説明 |
| | 6月 | ism-Link/ID-Link連携全件導入の設置作業 |
| | 7月 | 全件データの分析実施 |
| | 8月 | 第1回後発医薬品集約化の初期検討 |
| | 9月 | 第2回後発医薬品集約化の初期検討 飯田市立病院薬剤部への概要説明 |
| | 11月 | 当会内で概要説明 飯田医師会への概要説明 |
| | 12月 | 飯田医師会＝当会の協議会 |
| | 2021年 3月 | 地域フォーミュラリ講演会 後発医薬品集約化説明会 |
| | 5月 | 後発医薬品集約化延期（書面にて通達） |
| 2021年 | 6月 | 流通状況調査・情報共有開始 |
| | 7月 | 後発医薬品集約化への薬局参加・対象成分の検討 |
| | 8月 | 現地向け要望書発出 飯田市＝飯田下伊那歯科医師会＝当会の協議会 |
| | 9月 | 対象医薬品群の追加検討 |
| | 12月 | 後発医薬品集約化に向けた医薬品安定供給問題対処方法の検討 |
| | 2022年 6月 | 流通状況調査実施・結果情報共有 |
| | 8月 | 当会から飯田市へPFS制度活用の提案 |
| | 10月 | アンケート調査、調剤情報の活用（持参薬鑑別）の検討 |
| | 11月 | 飯田市へ地域フォーミュラリの紹介 |
| | 11月 | アンケート調査実施 |
| 2023年 | 1月 | 飯田医師会＝当会連携会議 飯田市へ医療費適正化の提案 |
| | 2月 | 飯田市へ推進支援（保険者努力支援制度）の依頼 当会会員2薬局の後発医薬品集約化検討、追加品目の検討 |
| | 6月 | 当会3薬局で後発医薬品集約化開始 |
| | 7月 | 通知「フォーミュラリの運用について」の周知 飯田医師会担当理事との情報交換 |
| | 8月 | 第2回アンケート調査実施 飯田医師会会长と地域フォーミュラリ検討方針の確認 飯田市＝飯田下伊那歯科医師会＝当会の協議会 |

② 調剤データの活用

■ 当会会員薬局のism-Link/ID-Link連携の参加状況 ※2023年3月末現在

当地区全66薬局中61薬局が参加（参加率92.4%）

■ 使用状況を踏まえた医薬品群の検討

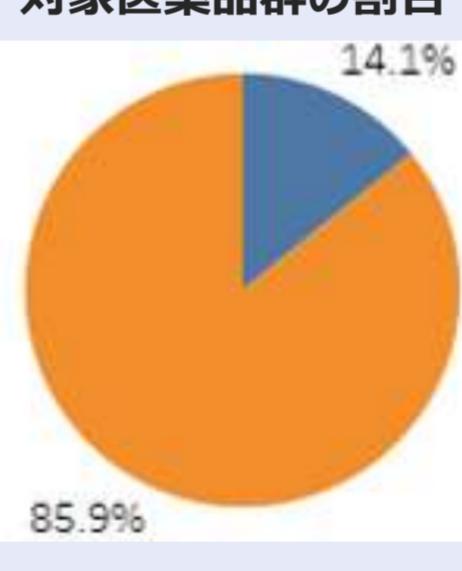


■ 日本フォーミュラ学会モデルフォーミュラリを参考に医薬品群を検討

日本フォーミュラ学会モデルフォーミュラリ観

| | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬 | 11 経口ビスホスホネート製剤 |
| 2 ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬 | 12 第2世代抗ヒスタミン薬 |
| 3 α-グルコシダーゼ阻害薬 | 13 消炎・鎮痛剤 |
| 4 インフルエンザ治療薬 | 14 神經障害性疼痛治療薬(Ca2+チャネルα2リガンド) |
| 5 グリニド系糖尿病用薬 | 15 多価不飽和脂肪酸製剤 |
| 6 HMG-CoA還元酵素阻害剤 | 16 尿酸生成抑制薬 |
| 7 経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB) | 17 インフリキシマブ製剤 |
| 8 (ベン型)持続型インスリン剤 | 18 5-HT3受容体拮抗薬 |
| 9 (ベン型)超速効型インスリン | 19 経口ヘルペス治療薬 |
| 10 銅プロテアミン | 20 高カリウム血症改善剤 |

当地区におけるモデルフォーミュラリ 対象医薬品群の割合



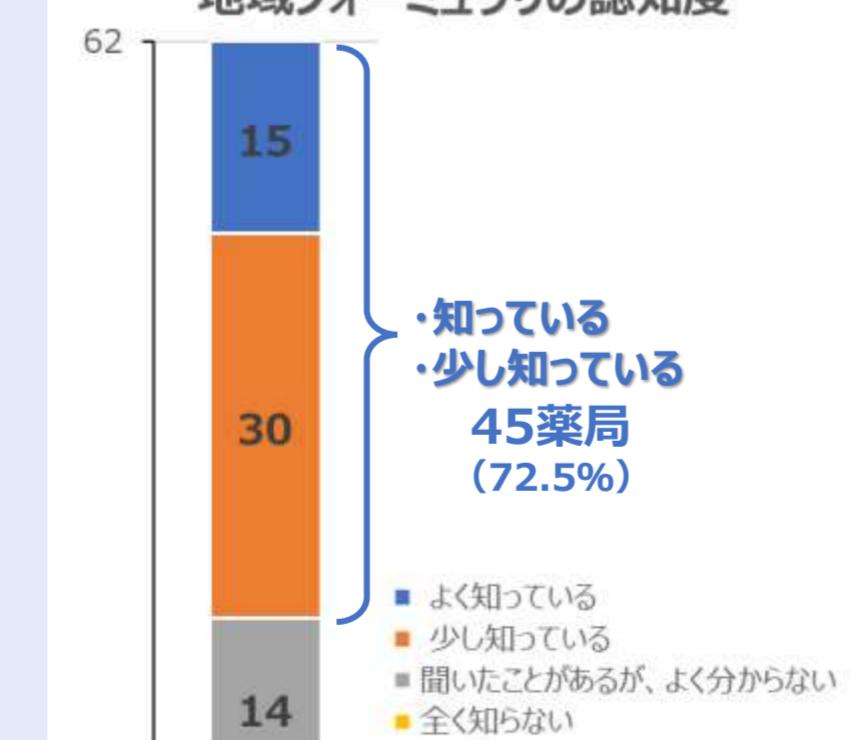
■ 当会が優先的に検討を推進する医薬品群

| |
|---------------------|
| アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬 |
| HMG-CoA還元酵素阻害剤 |
| 経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB) |
| α1遮断薬 |
| 消炎・鎮痛剤 |
| Ca拮抗薬 |
| 抗ヒスタミン薬 |
| ビタミンB12剤 |
| ロコトリエン系拮抗薬 |
| 胆汁分泌促進剤 |

③ 会員薬局向けのアンケート調査

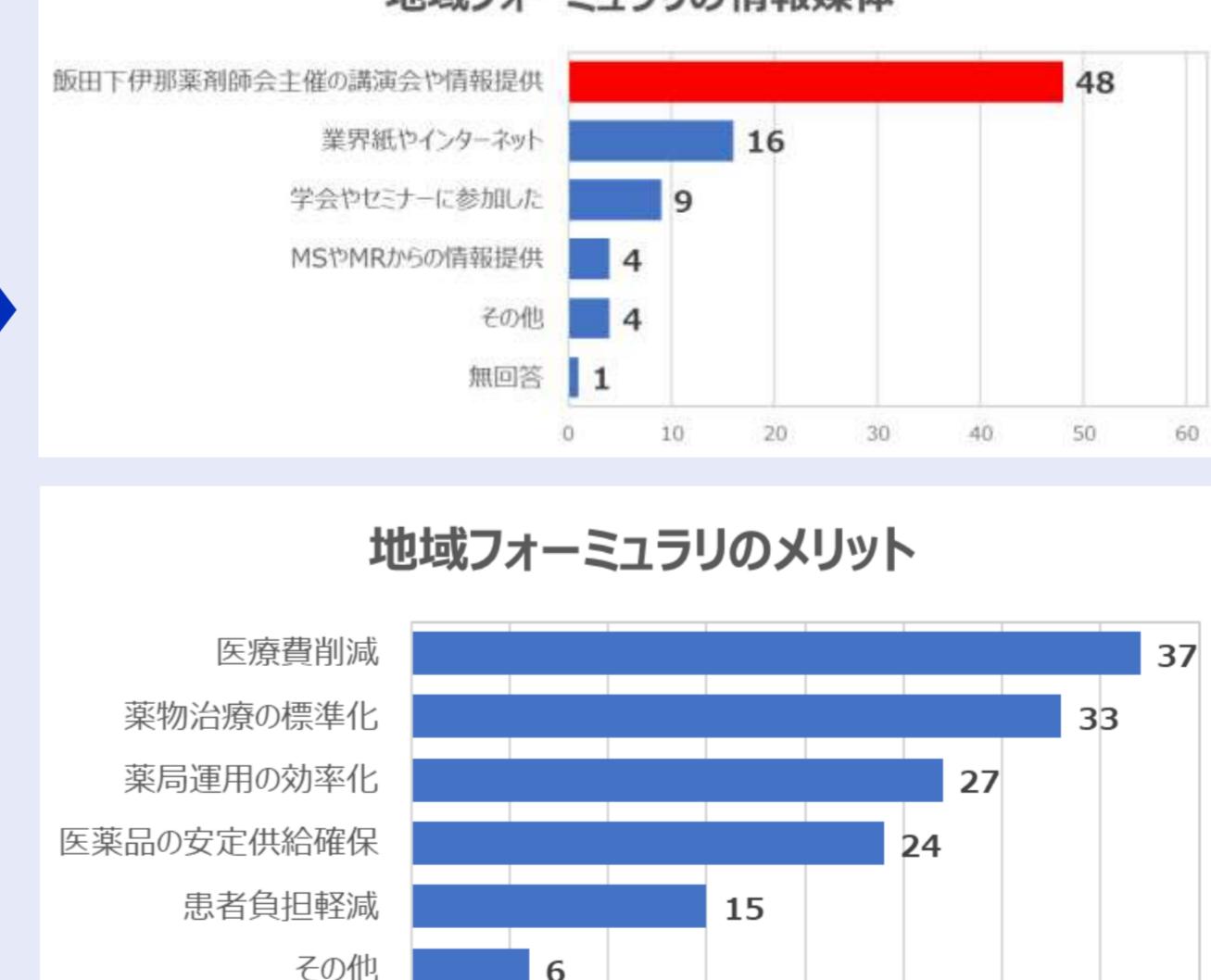
| | 薬局数 | 割合 |
|-----|-----|-------|
| 回答 | 62 | 92.5% |
| 未回答 | 5 | 7.5% |
| 計 | 67 | |

地域フォーミュラリの認知度

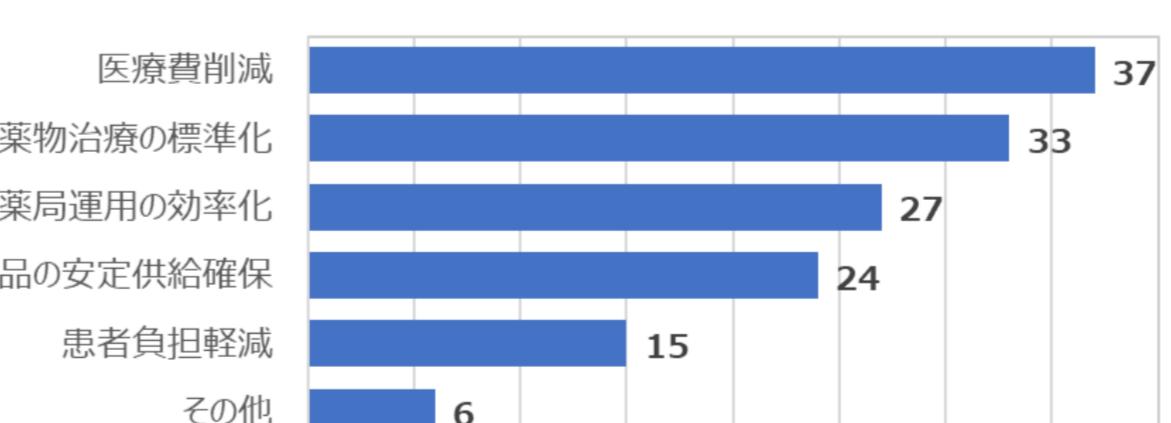


・知っている
・少し知っている
45薬局(72.5%)

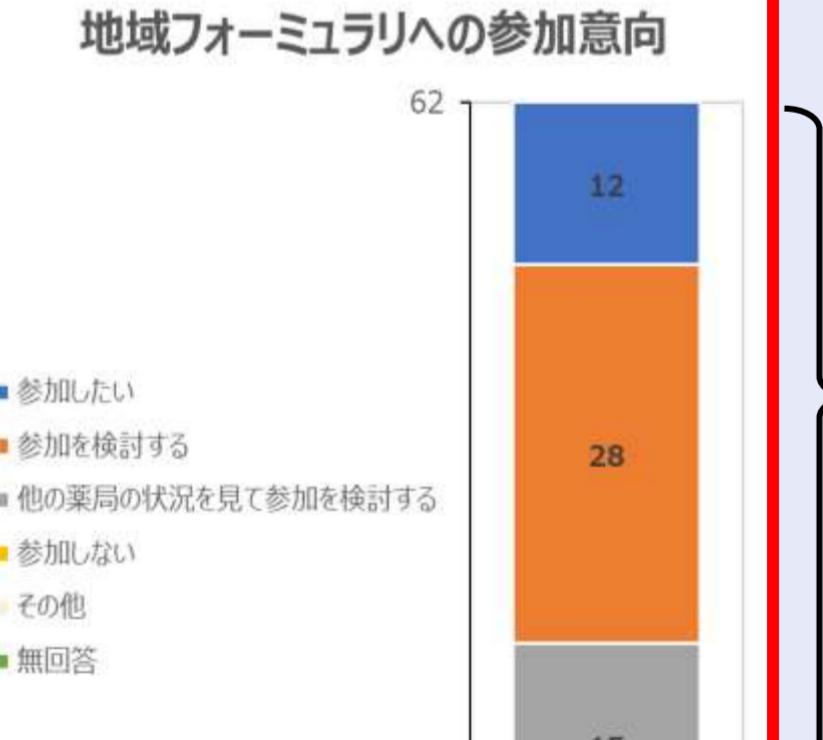
地域フォーミュラリの情報媒体



地域フォーミュラリのメリット

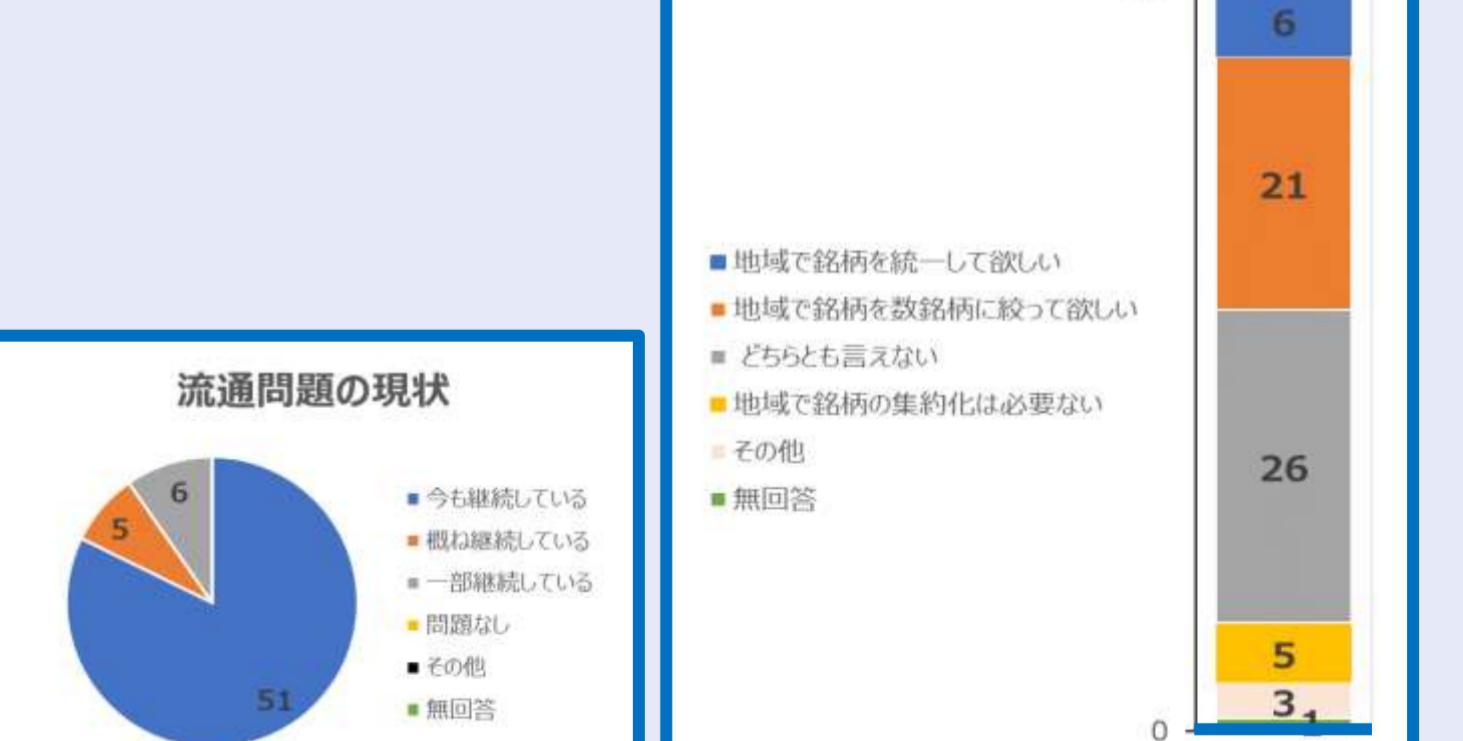


地域フォーミュラリへの参加意向

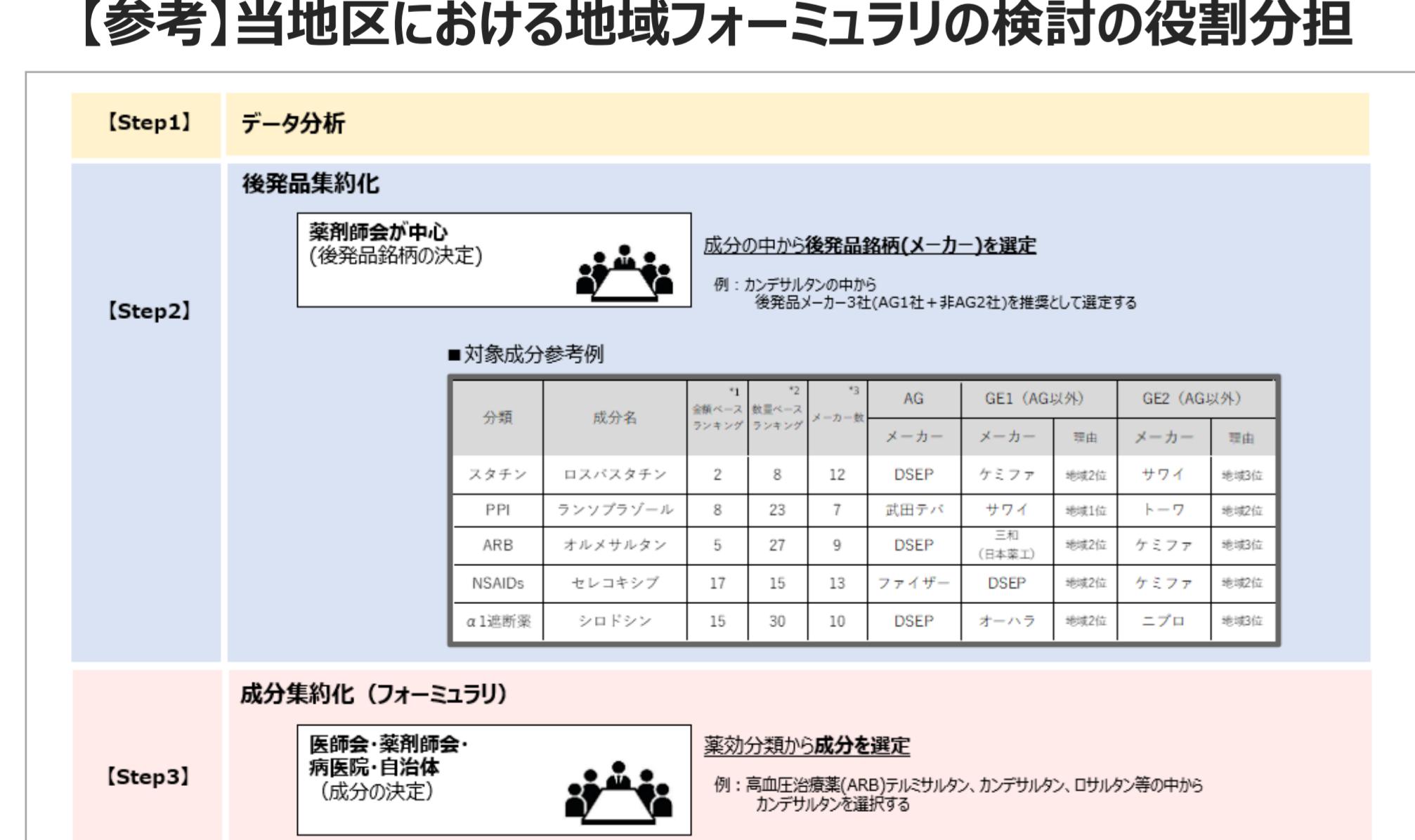


参加・参加検討する
55薬局
(88.7%)

地域GE集約化に対する意見



【参考】当地区における地域フォーミュラリの検討の役割分担



■ 考察

- ・当初、当地区での地域フォーミュラリの検討方針は、飯田医師会が成 分集約化、当会が銘柄の集約化を行うこととした。その後、講演会を 実施したもの、新型コロナ感染症によって協議会等が延期となった。 2023年1月に当会から飯田医師会に検討状況の報告を行い、飯田 医師会も協議を再開することになった。
- ・2021年から医薬品流通問題が本格化し、当会も対応に追われたた め、当会全体で地域フォーミュラリの連携協議を進めにくい状態が続いたが、WEBセミナーや会報誌を活用し、当会会員に地域フォーミュラリ の情報提供を継続的に行っていった。その結果として、地域フォーミュラリ の認知度の向上ができた。

- ・銘柄集約化を実施するにあたり、医薬品流通問題の影響を調査した。 結果として、安定供給確保について当会会員から強い要望があった。そ のため、当会としては、医薬品の安定供給が見込めた3成分に限り、銘柄 の集約化を開始することとした。
- ・飯田下伊那歯科医師会とは、数年前より使用頻度の高い医薬品の処 方例を作成していたので、今後、それを参考に協議を進めていきたい。
- ・2023年7月7日に「フォーミュラリの運用について」が発出されたことを受け、各都道府県も医療費適正化計画等の検討を推進することが想定される。今後は、各行政機関との連携を密にして進めていきたいと考えている。



日本フォーミュラ学会 COI 開示

筆頭演者名：木下 雅文（飯田下伊那薬剤師会）
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係ある企業などはありません。

Japanese Society of Formulary



一般社団法人
飯田下伊那薬剤師会